

第1表（教）

立四小発第105号
令和8年2月27日

立川市教育委員会 殿

学校名 立川市立第四小学校
校長名 浅尾 文
(公印省略)

令和8年度 教育課程について（届）

立川市立学校管理運営規則第12条に基づき、下記のとおりお届けします。

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

「知」・「徳」・「体」の調和のとれた総合的な力を育むために以下の教育目標を定める。

○みんなとつくる【自主・自律・創造】

◎みんなとつたえあう【表現・受容】

○みんなとみとめあう【相互承認】

(2) 立川市教育委員会学校教育の指針を踏まえた学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 「みんなとつくる」子ども「自治力・創造力」の育成のために

- ・児童が主体的に自力解決や学び合いを行い、学びのコントロールによる「自分たちがみんなとつくる授業」を展開する。
- ・全教育活動において児童が主体的に取り組み、自らすすんで考えて発信し、協働して取り組む態度を育成する。
- ・自己決定、相互決定の場を多く設定し、「自分で決めた」責任感と、「自分たちでできた」達成感が味わえるようにする。

イ 「みんなとつたえあう」子ども「表現力・受容力」の育成のために

- ・これからの時代で必要不可欠な表現力・受容力を育てるために、思いや考えを言語で表現する場を全教育活動で意図的・計画的に設定し、価値付けをする。
- ・話し手の意図を受容的に聞き、その内容に受け答えできるようなよい聞き手を育てる。
- ・全ての学習の基盤をつくる児童の言語活動、語彙の充実を図る。

ウ 「みんなとみとめあう」子ども「相互承認力」の育成のために

- ・全教育活動を通して互いを大切に、協働して活動に取り組む場面を意図的に設定し、相互承認ができるようにする。
- ・多様性を認め、自分のよさや友達のよさに気付けるような場を多く設定する。

エ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

- ・重点目標である「みんなとつたえあう」を主眼においたカリキュラム・マネジメントを実施する。
- ・コミュニティ・スクールであることを生かし、地域と学校が相互にアイデアを出し合って教育課程を編成したり、相互に発信し合ったりし、地域との連携を強化して新たな教育活動の展開を図る。
- ・全ての教員がやりがいをもてるよう、一人一人の長所を伸ばす校務分掌とする。特に、若手教員の育成に注力する。
- ・どの子ども安心して居場所をもてるよう、不登校対策支援教室を一層充実させ、その教室を利用する、特別支援が必要な子への指導の充実を図る。

第2表の1

学校名 立川市立第四小学校

2 指導の重点

(1) 学習指導要領及び生徒指導提要进行を踏まえた各教科、特別の教科 道徳、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間、特別活動、立川市民科における指導

ア 各教科

- ・学校の教育目標に合わせたカリキュラムを基に、教科横断的かつ、習得・活用・探究という学びの過程を重視し、児童が自分でつくる授業を個に応じて展開できるようにする。
- ・地域未来塾事業、タブレット PC やデジタルドリルを活用した多様な学習機会の設定や、東京ベーシック・ドリルなども用いて基礎・基本の定着を図る。
- ・重点目標に合わせ、「協働的な学び・対話的な学び」を重視し、自分の考えをもったり、伝え合ったりする場面を意図的に設定する。
- ・算数科においては指導方法工夫の改善に努め、習熟度別少人数指導展開をさらに細かく進め、個に応じた指導の充実を図る。
- ・教科担任制、学年担任制（チーム担任制）を中学年まで実施し、内容の充実、均等化を図り、児童理解や「みんなとみとめあう」風土の形成、学力の底上げを図る。

イ 特別の教科 道徳

- ・人権尊重の理念を正しく理解し、自分も他者も大切にできる心情や態度を育てるとともに、他者を受け入れたり、合意形成したりする力を育成する。そのために、「考え、議論する道徳」が推進されるよう道徳教育推進教員を中心に全職員の授業改善を目指す。
- ・特別活動における集団的な活動や体験活動を通し道徳的実践につなげる。
- ・道徳授業地区公開講座で道徳科の授業を公開し、家庭や地域への啓発・連携に努め、児童の道徳的実践力を高める。

ウ 外国語活動

- ・外国語活動及び外国語は教科担任が授業を行い、教科の系統性を踏まえて授業改善に努め、指導力の向上を図り、児童の外国語の活用能力を伸ばす。
- ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度やそのための基礎的な技能を身に付けられるよう、TGG GREEN SPRINGS の活用を図ったり、ALT とともに教員がオールイングリッシュで指導したりする。

エ 総合的な学習の時間

- ・探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指し、総合的・横断的な単元設定を行う。
- ・地域の特性を生かした自然体験や交流活動、福祉体験等の体験的な学習を行い、ゲストティーチャー等の学習支援者を積極的に活用する。

オ 特別活動

- ・キャリア教育の要として、自分のよさや可能性を生かしてなりたい自分の実現につなげる。
- ・学級や学校の一員として役割を果たすことにより、集団の所属感を育む。また、学年担任制を中学年まで広げることにより学年としての力や連帯感を育む。「心理調査」の活用により学級力を視覚的に評価する。
- ・話し合いによって合意形成を図る力、自主的・実践的に取り組む力を、学級活動や児童会活動等で養う。

カ 立川市民科

- ・一中校区の連携を図り、体験的で探究的な単元設定や、多様性を尊重した単元設定を行なうことで、立川を愛し、まちづくりに貢献しようとする心情や態度を育成する。
- ・地域と連携したカリキュラムを作成し、ともに地域の担い手を育てていく意識を高める。

第2表の2

学校名 立川市立第四小学校

(2) 特色ある教育活動

- ・郷土のまちを愛する心情を育むため、市内にある公的機関や各種事業所等を活用し、立川のSDGsの取組への学習などを開発、推進する。「学校2020レガシー」を活用した教育課程、地域の願いを取り入れた教育課程を編成する。
- ・スタートカリキュラムを通じた教育を充実させ、園児の小学校体験、保育園の見学や教育観の交流などを通じて教員同士の連携を図り、小一プログラムの解消に努めて昨年度からの幼保連携を一層充実させる。また、小中連携を充実させ、小中協働のプロジェクト等において地域の特色を生かした一中校区独自の学習づくりを進める。

(3) 生活指導

- ・生活指導全体会を定期的で開催するとともに、学年担任制や教科担任制のよさを生かし、児童の情報の共有を推進し、多くの教員が児童の変化に気付けるようにする。また、自分自身の振り返り等を活用することにより自己肯定感を高め、児童が自分自身を高めていく自己指導能力の向上を目指す。
- ・本校のいじめ防止基本方針のもと、教職員一人一人の人権に対する意識を鋭敏にするとともに、スクールカウンセラーや保護者・地域、外部機関との連携も緊密にし、組織的な生活指導体制の強化を図る。
- ・児童虐待の早期発見・早期解決のために、子ども家庭センターやスクールソーシャルワーカー、児童相談所、民生児童委員等の外部機関との連携を強化するとともに、早期発見のための研修を計画的に行い、児童虐待に対する鋭敏な感覚を養う。
- ・災害に対する正しい知識を身に付け、自助・共助に基づく主体的な実践力を育てるために、安全教育プログラムを活用するとともに、四小校区合同防災訓練をはじめ、地域の方と協力し、実践的に学ぶ機会を設けていく。

(4) 特別な配慮を必要とする児童への指導

- ・不登校や学級不適応の要因を解消するべく、寄り添いの心や押し量る心をもって児童に接していくために、登校支援シートを活用するとともに、不登校支援コーディネーターの活用により、別室登校を教育的・効果的に進める。学校支援員やスクールソーシャルワーカーを柔軟に活用し、給食支援や別室登校の場を設けて個に応じた支援に努める。
- ・校内委員会の開催をはじめ、個別支援計画に基づいて支援するとともに、保護者や関係諸機関との連携を密にし、組織的・継続的な支援や指導を行う。
- ・全教員が特別支援教育を踏まえた児童理解や対応のスキルを向上させることができるよう、特別支援教室の教員の技術を伝える機会をもつ。
- ・計画的に特別支援教室から情報を発信し、特別支援教育や特別支援教室についての理解を児童や保護者に促し、違いを認め合い、支え合う児童の育成を目指す。
- ・「みんなとみとめあう」の更なる充実に向けて、どんな自分も大切で、お互いに支え合うという視点を大切にし、相互承認の一層の充実を図る。

(5) 進路指導

- ・自己肯定感や自己有用感を高め、将来の夢や希望に向けて努力ができるようにするために「立川夢・未来ノート」を活用するとともに、一人一人に寄り添い、あらゆる機会を捉えて児童を認め、励ます。
- ・希望をもって中学校に進学できるようにするために、中学校の部活動体験や授業体験、共同授業等、一中校区での取組の充実に向けて、内容の見直し、改善を図る。
- ・児童がこれからの学びや生き方を見通し、個人の目標について自己決定し、なりたい自分の実現に向けて行動できるように、キャリア教育を計画的に進める。